

税とは「桶の中の水のようなもの」

水戸市立内原中学校 2年 金谷 ふうわ

私は本が好きで、よくお小遣いで本を買いますが、その際に消費税がかかります。私の一番身近な税である消費税がどのように使われているのか調べたところ、大部分が社会保障に使われている事が分かりました。私は幼少期から病気がちで、手術や入院を経験してきましたが、治療や予防接種を公費で受ける事ができたお陰で、今まで大きな病気もせず成長する事ができています。私たちの命や健康を守るために税金が使われている事を知り、感謝の気持ちとともに、将来、私も未来の子供たちが安心して医療が受けられるよう、きちんと働いて納税し、社会に貢献しなければならないと思いました。

私の母が教えてくれた言葉に「優しさは桶の中の水のようなもの」というものがあります。桶の中で水を相手の方に押し流していくと、いつしかその水は自分に戻ってきますが、自分の方にかき集めようとする、水は逃げていってしまいます。税金も同じで、一旦は自分の手から離れていくけれども、巡り巡って自分を助けてくれるものだと思うのです。

納税について「取られるばかり」と感じる事があるかもしれません。でも、それと同じくらいに関心を持って、税金が何に使われているのかを公表されている情報で調べてみると、その税金が私たちの身の回りでのどのように使われているか知る事が出来ます。例えば、政府が定額減税を行った際は多くの家庭が恩恵を受けました。しかし、救急車の利用やゴミの処理など、私たちが日常生活で当たり前のように受けている公共サービスも、その税金を財源として成り立っています。救急車を呼ぶと一回約四万五千元、家庭ゴミの焼却には国民一人当たり年間一万八千元もの税金が使われているとされており、私たちの一つ一つの行動や判断が、税金の使われ方に影響を与えている事が分かります。

これからは節税の意識を持つことが大切です。ゴミやフードロスを減らす、健康に気をつけるなど、私たちにもできる事があります。税金の無駄遣いを避け、効率的に使う為には、個人が責任を持って行動する事が求められます。そうした行動によって、自分達が納めた税金が有意義に使われていると感じられるようになるのではないのでしょうか。

私自身、今後は自分に何ができるのか、何をすべきかを考えながら成長し、将来は社会の一員として、未来の子供たちのために役立つ納税者になりたいと強く思います。税金は単なる負担ではなく、社会全体を支えるための重要な資源であり、助け合いの社会を作る基盤となります。私たちが納めた税金がどのように使われ、社会にどのような影響を与えているのかを学び、理解し、その重要性を認識する事が必要です。これからも感謝の気持ちを持ちながら、責任ある納税を心がけ、未来の社会をより良くしていく一助となる事を目指していきたいと思えます。